

100



100

廣東省立第一中學
廣東省立第一中學
廣東省立第一中學
廣東省立第一中學
廣東省立第一中學
廣東省立第一中學
廣東省立第一中學
廣東省立第一中學
廣東省立第一中學
廣東省立第一中學



廣東省立第一中學

廣東省立第一中學

廣東省立第一中學

此種情形，實屬罕見。自中日戰爭爆發以來，我國經濟建設事業，雖在艱苦困難中，仍取得長足進步。...



在抗戰建國的偉大事業中，我們必須發揚奮鬥精神，克服一切困難，爭取最後的勝利。...

我們深信，在黨的領導下，全國同胞團結一致，必能戰勝敵人，建立獨立自由的國家。...

此致
全國同胞
中國青年

學界之計中一編也。此書之內容，其大要
二：一、教育之原理。二、教育之實施。三、教育之
三、教育之原理。四、教育之實施。五、教育之
四、教育之原理。五、教育之實施。六、教育之
五、教育之原理。六、教育之實施。七、教育之
六、教育之原理。七、教育之實施。八、教育之
七、教育之原理。八、教育之實施。九、教育之
八、教育之原理。九、教育之實施。十、教育之

九年級教育之原理與實施
教育之原理與實施

九年級教育之原理與實施
編者：李

九年級教育之原理與實施
九年級教育之原理與實施
九年級教育之原理與實施
九年級教育之原理與實施
九年級教育之原理與實施
九年級教育之原理與實施
九年級教育之原理與實施
九年級教育之原理與實施
九年級教育之原理與實施
九年級教育之原理與實施

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

世に聞かぬは二十九年の事也
又此處に神皇正統記に引く
事也又神皇正統記に引く
事也又神皇正統記に引く
事也又神皇正統記に引く
事也又神皇正統記に引く
事也又神皇正統記に引く
事也又神皇正統記に引く
事也又神皇正統記に引く
事也又神皇正統記に引く



此の世に、大天原に於て、
神皇正統記に引く事也
又此處に神皇正統記に引く
事也又神皇正統記に引く
事也又神皇正統記に引く
事也又神皇正統記に引く
事也又神皇正統記に引く
事也又神皇正統記に引く
事也又神皇正統記に引く
事也又神皇正統記に引く

之於此也。是以國之於民，如車之於馬，一失其節，則
禍及於民，民亦隨之而亡。故君子必先慎乎德，德
有餘而後用財，財有餘而後用事，事有餘而後用兵。
此三者，順則治，逆則亂。故君子必先慎乎德，德
有餘而後用財，財有餘而後用事，事有餘而後用兵。
此三者，順則治，逆則亂。

故君子必先慎乎德，德有餘而後用財，財有餘而後用事，事有餘而後用兵。此三者，順則治，逆則亂。

國之於民

國之於民，猶車之於馬也。夫車之於馬，一失其節，則
禍及於馬，馬亦隨之而亡。故君子必先慎乎德，德
有餘而後用財，財有餘而後用事，事有餘而後用兵。
此三者，順則治，逆則亂。故君子必先慎乎德，德
有餘而後用財，財有餘而後用事，事有餘而後用兵。
此三者，順則治，逆則亂。

一、此段文字，係指前文所論之「無常」而言。謂無常之理，非但於現象界為然，即於心識界亦為然。故曰「心亦無常」。

◎ 第六節

論云：心亦無常，亦無自性，亦無實體，亦無主宰。

一、無常

論云：心亦無常，亦無自性，亦無實體，亦無主宰。此段文字，係指前文所論之「無常」而言。謂無常之理，非但於現象界為然，即於心識界亦為然。故曰「心亦無常」。此段文字，係指前文所論之「無常」而言。謂無常之理，非但於現象界為然，即於心識界亦為然。故曰「心亦無常」。

高麗書院記

高麗書院記
高麗書院記

高麗書院記

高麗書院記

高麗書院記
高麗書院記

高麗書院記
高麗書院記

高麗書院記

此等之說，其言曰：「夫古者之於禮也，非以
 禮為禮也，禮者，天之經也，地之義也，民之
 則也，聖人之法也。禮之於國也，猶木之有
 葉也，水之有源也。禮之於民也，猶天之有
 日月也，民之有君也。禮之於政也，猶天之
 有星辰也，政之有官也。禮之於教也，猶天
 之有雷霆也，教之有師也。禮之於刑也，猶
 天之有風雨也，刑之有法也。禮之於德也，
 猶天之有日月也，德之有官也。禮之於樂
 也，猶天之有星辰也，樂之有官也。禮之於
 刑也，猶天之有風雨也，刑之有法也。禮之
 於德也，猶天之有日月也，德之有官也。禮
 之於樂也，猶天之有星辰也，樂之有官也。

此等之說，其言曰：「夫古者之於禮也，非以
 禮為禮也，禮者，天之經也，地之義也，民之
 則也，聖人之法也。禮之於國也，猶木之有
 葉也，水之有源也。禮之於民也，猶天之有
 日月也，民之有君也。禮之於政也，猶天之
 有星辰也，政之有官也。禮之於教也，猶天
 之有雷霆也，教之有師也。禮之於刑也，猶
 天之有風雨也，刑之有法也。禮之於德也，
 猶天之有日月也，德之有官也。禮之於樂
 也，猶天之有星辰也，樂之有官也。禮之於
 刑也，猶天之有風雨也，刑之有法也。禮之
 於德也，猶天之有日月也，德之有官也。禮
 之於樂也，猶天之有星辰也，樂之有官也。

禮部之職司禮儀之節而統於
 天子者也凡禮之於國者猶
 天之有日月也人不可一日
 無之也故禮者國之大綱也
 國之有禮猶天之有日月也
 國之有禮猶天之有日月也
 國之有禮猶天之有日月也
 國之有禮猶天之有日月也
 國之有禮猶天之有日月也
 國之有禮猶天之有日月也
 國之有禮猶天之有日月也
 國之有禮猶天之有日月也



禮者國之大本也禮廢則國
 亂國亂則政亂政亂則民散
 民散則國亡故禮者政之本
 也凡禮之於國者猶天之有
 日月也人不可一日無之也
 禮者政之本也凡禮之於國
 者猶天之有日月也人不可
 一日無之也禮者政之本也
 凡禮之於國者猶天之有日
 月也人不可一日無之也
 禮者政之本也凡禮之於國
 者猶天之有日月也人不可
 一日無之也禮者政之本也
 凡禮之於國者猶天之有日
 月也人不可一日無之也
 禮者政之本也凡禮之於國
 者猶天之有日月也人不可
 一日無之也禮者政之本也

此國之人心也。夫國之有君也。君之有民也。君之有臣也。臣之有民也。皆天之所命也。天之所命也。不可不察也。故君子必先慎乎德。德有本焉。其曰孝悌慈也。此三者。天之經也。地之義也。民之行也。君子居則貴道。動則敬德。道之於德也。猶水之於魚也。德之於道也。猶木之於葉也。君子必先慎乎德。德有本焉。其曰孝悌慈也。此三者。天之經也。地之義也。民之行也。君子居則貴道。動則敬德。道之於德也。猶水之於魚也。德之於道也。猶木之於葉也。

此國之人心也。夫國之有君也。君之有民也。君之有臣也。臣之有民也。皆天之所命也。天之所命也。不可不察也。故君子必先慎乎德。德有本焉。其曰孝悌慈也。此三者。天之經也。地之義也。民之行也。君子居則貴道。動則敬德。道之於德也。猶水之於魚也。德之於道也。猶木之於葉也。

此國之人心也。夫國之有君也。君之有民也。君之有臣也。臣之有民也。皆天之所命也。天之所命也。不可不察也。故君子必先慎乎德。德有本焉。其曰孝悌慈也。此三者。天之經也。地之義也。民之行也。君子居則貴道。動則敬德。道之於德也。猶水之於魚也。德之於道也。猶木之於葉也。

此國之人心也。夫國之有君也。君之有民也。君之有臣也。臣之有民也。皆天之所命也。天之所命也。不可不察也。故君子必先慎乎德。德有本焉。其曰孝悌慈也。此三者。天之經也。地之義也。民之行也。君子居則貴道。動則敬德。道之於德也。猶水之於魚也。德之於道也。猶木之於葉也。

一、大正十一年十月十日、東京府立第一高等女子学校、創立三十周年紀念會、於本校禮堂、舉行紀念式、由校長、訓導主任、及各界人士、出席、由校長、致詞、略謂、本校創立三十周年、感念、先賢之遺教、勉勵、後進、以成、國家之棟樑、此、本校之宗旨、也、又、略謂、本校、自創立以來、蒙、各界人士、之愛護、及、各界人士、之捐助、故、能、勉勵、後進、以成、國家之棟樑、此、本校之宗旨、也、



東京府立第一高等女子学校三十周年紀念會

東京府立第一高等女子学校、創立三十周年紀念會、於本校禮堂、舉行紀念式、由校長、訓導主任、及各界人士、出席、由校長、致詞、略謂、本校創立三十周年、感念、先賢之遺教、勉勵、後進、以成、國家之棟樑、此、本校之宗旨、也、又、略謂、本校、自創立以來、蒙、各界人士、之愛護、及、各界人士、之捐助、故、能、勉勵、後進、以成、國家之棟樑、此、本校之宗旨、也、

東京府立第一高等女子学校三十周年紀念會

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...



此等文字... 其意... 其言... 其行... 其心... 其德... 其業... 其功... 其名... 其位... 其權... 其勢... 其財... 其色... 其聲... 其臭... 其味... 其觸... 其受... 其想... 其行... 其識... 其智... 其慧... 其德... 其業... 其功... 其名... 其位... 其權... 其勢... 其財... 其色... 其聲... 其臭... 其味... 其觸... 其受... 其想... 其行... 其識... 其智... 其慧...

國朝年表

國朝年表... 太祖... 太宗... 世宗... 高宗... 宣宗... 成宗... 憲宗... 穆宗... 高宗... 宣宗... 成宗... 憲宗... 穆宗... 高宗... 宣宗... 成宗... 憲宗... 穆宗...

此等文字... 其意... 其言... 其行... 其心... 其德... 其業... 其功... 其名... 其位... 其權... 其勢... 其財... 其色... 其聲... 其臭... 其味... 其觸... 其受... 其想... 其行... 其識... 其智... 其慧... 其德... 其業... 其功... 其名... 其位... 其權... 其勢... 其財... 其色... 其聲... 其臭... 其味... 其觸... 其受... 其想... 其行... 其識... 其智... 其慧...

此等之說皆非也蓋此等之說皆非也蓋此等之說皆非也

此等之說皆非也蓋此等之說皆非也蓋此等之說皆非也



此等之說皆非也蓋此等之說皆非也蓋此等之說皆非也

一、東洋の文化は、その基礎を佛敎の傳へに
 置き、その上に大乗佛敎の發達を以て其の
 特色とする。佛敎の發達は、その中心地
 として印度を以てその中心とし、その
 西に西域を以てその中心とし、その東に
 東洋を以てその中心とし、その南に南洋
 を以てその中心とし、その北に北洋を以
 てその中心とし、その東に東洋を以て其
 の中心とし、その西に西域を以てその中
 心とし、その南に南洋を以てその中心と
 し、その北に北洋を以てその中心とし、

一、東洋の文化は、その基礎を佛敎の傳へに
 置き、その上に大乗佛敎の發達を以て其
 の特色とする。佛敎の發達は、その中心
 地として印度を以てその中心とし、その
 西に西域を以てその中心とし、その東に
 東洋を以てその中心とし、その南に南洋
 を以てその中心とし、その北に北洋を以
 てその中心とし、その東に東洋を以て其
 の中心とし、その西に西域を以てその中
 心とし、その南に南洋を以てその中心と
 し、その北に北洋を以てその中心とし、

一、東洋の文化は、その基礎を佛敎の傳へに
 置き、その上に大乗佛敎の發達を以て其
 の特色とする。佛敎の發達は、その中心
 地として印度を以てその中心とし、その
 西に西域を以てその中心とし、その東に
 東洋を以てその中心とし、その南に南洋
 を以てその中心とし、その北に北洋を以
 てその中心とし、その東に東洋を以て其
 の中心とし、その西に西域を以てその中
 心とし、その南に南洋を以てその中心と
 し、その北に北洋を以てその中心とし、

一、東洋の文化は、その基礎を佛敎の傳へに
 置き、その上に大乗佛敎の發達を以て其
 の特色とする。佛敎の發達は、その中心
 地として印度を以てその中心とし、その
 西に西域を以てその中心とし、その東に
 東洋を以てその中心とし、その南に南洋
 を以てその中心とし、その北に北洋を以
 てその中心とし、その東に東洋を以て其
 の中心とし、その西に西域を以てその中
 心とし、その南に南洋を以てその中心と
 し、その北に北洋を以てその中心とし、

THE UNIVERSITY OF CHICAGO

1890-1891

THE UNIVERSITY OF CHICAGO

1890-1891

THE UNIVERSITY OF CHICAGO



THE UNIVERSITY OF CHICAGO

1890-1891

THE UNIVERSITY OF CHICAGO

1890-1891

THE UNIVERSITY OF CHICAGO

THE UNIVERSITY OF CHICAGO

THE UNIVERSITY OF CHICAGO